

創立記念式典挨拶

本日の盈進学園創立 104 周年の記念式典に、お忙しい中ご臨席いただきました、盈進学園同窓会、柳本洋二郎会長を始め、多くのご来賓の皆様、衷心より篤くお礼を申し上げます。

104 年前、藤井曾太郎先生が盈進学園を創立されたのは 50 歳の時でした。小学校長の職を辞し、私財を基に、商業に従事する実学の人材を育成することを志し、商業実務学校を設立されました。

さて、当時の男性の平均寿命は 50 歳に満たなかったそうですから、50 歳という年齢と、既に安定した職にあったことなどを考えると、藤井先生の学校設立に賭ける意志の堅さと、実学の人を育て社会に貢献したいという情熱は、並々ならぬものがあつたに違いないことでしょう。紛れもなく、藤井先生にとって学校設立は、夢ではなく達成すべき明確な目標となっていたのです。

私たちは日常「夢」とか「目標」と言う言葉を口にしますが、意識して使い分けているでしょうか。

夢と目標について、現代のスポーツ界の名選手は次のように定義しています。

メジャーリーガーとなった松坂大輔選手は、夢と目標を明確に区別しています。

「夢という言葉は好きではない。見ることは出来ても、かなわないのが夢。大リーグで投げられると信じて、それを目標にしてやってきたので、今があると思う。」

また、スピードスケートの世界で、過去 4 度冬季オリンピックに出場し、冬季長野オリンピックではゴールドメダリストにもなった清水宏保選手は、目標についてこういっています。「目標とは達成すべき結果のことだ」

つまり、目標は必ず結果として勝ち取らなければならないのだ、と言い切っているのです。目標を立てたら、不退転の決意であらゆる努力を重ね必ず達成するという意志がはっきりと感じられます。

藤井曾太郎先生にとって、盈進学園創設は実現できたらいい夢ではなく、達成しなければならない明確な目標だったのです。そして、人々を考え、社会を思い、国の未来を思索して、その目標は個人の利害を超え、更に高い志となったのでしょう。母校盈進学園設立には、間違いなくこのような強い意志と情熱と志があつたのです。

今、盈進学園に学ぶ君たちは、達成を心に固く決意した目標を持っていますか。あるいは夢でしょうか。

104 回目の創立記念日を迎えた今日、創立者藤井曾太郎先生を偲び、学園創立への志に思いをはせ、26,000 名を越える卒業生達の歩みを感じつつ、私たちの日々を振り返り、創立者の心を継承していくことを誓いたいと思います。

最後に、本日ご臨席いただきましたご来賓の皆様、重ねて篤くお礼を申し上げ、校長としての挨拶といたします。

2008 年 11 月 29 日

創立 104 周年記念式典挨拶

校長 立石良寛